

「言葉による見方・考え方」を働かせ、育てる「スイッチ発問」が意識づいた授業作りを



和歌山信愛大学・教授

小林康宏



『問題解決型国語学習を成功させる「見方・考え方」スイッチ発問』（拙著 2021 東洋館出版社）には17教材の具体的な単元・授業デザインを収めました。

1 「スイッチ発問」とは何か

学習指導要領が変わりました。あなたの授業は、何が変わりましたか。

このように問われて明快に答えられる先生はどれくらいいらっしゃるでしょうか。

二〇一七年度版学習指導要領は小学校では二〇二〇年度、中学校では今年度から全面实施されました。今度の改訂では児童・生徒に「資質・能力」、つまり「できるようになる」力をつけることが目標とされています。ここでポイントになるのが「できるようになる」力です。これまでの多くの国語の授業作りでは、それよりも例えば物語や小説を「どれだけ確かに、そして豊かに読み取れたか」ということに偏って、教師の意識が注がれてきたように感じます。換言すると、例えば「ごんぎつね」で「ごん、お前だったのか、いつもくりをくれたのは。」という兵十の問いかけに対して、ぐったりと目をつぶったままうなずいたごんはどんな気持ちだったかという課題に対する考えとして「気づいてもらえて嬉しい」「嬉しいけれど、兵十を再び一人ぼっちにさせることが切ない」等の考えには教師の関心は

向くけれども、それはどんな「言葉による見方・考え方」（以下「見方・考え方」）を働かせる力をつけたのかと。いったことには関心が薄かったということです。

それでは子どもに「物語を読むことができる」力をつけることはおぼつかないでしょう。国語の一時間の授業には、図1に示す「本時の追究内容が獲得された姿」があります。それはいわゆる、「指導事項の指導内容が達成された姿」です。これまでの多くの国語の授業での関心はここまでだったと思います。

「できるようになる」力をつけるには、追究内容獲

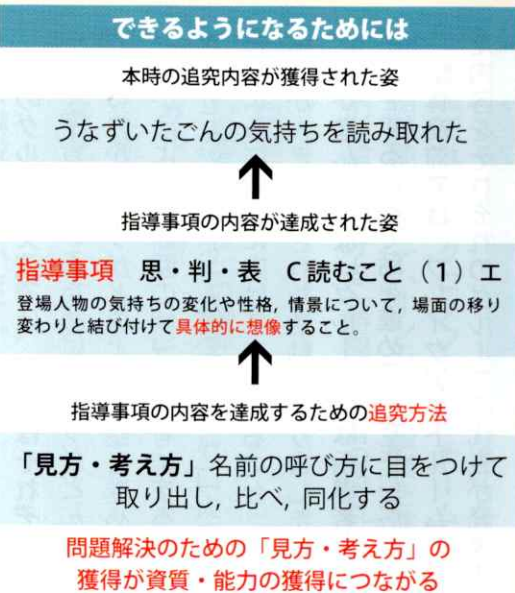


図1

得への関心に加えて、「指導事項の内容を達成するための追究方法」としての「見方・考え方」を明確にして、児童・生徒に積極的に働かせることが必要になります。

例えば「ごんぎつね」で、登場人物の名前の呼び方を取り出し、比較することで、人物の気持ちの変化を解釈することができ、その価値を実感した児童は、別の物語でも、名前の呼び方を取り出して比較するという「見方・考え方」を働かせて、読み深めることができるようになる」ということです。

学習課題の解決に適した「見方・考え方」を教師側が指導しなくても、自覚的に働かせていくことができる児童・生徒もいるでしょう。けれども、多くの児童・生徒は、学習課題を設定したときに、当該の教材で働かせることを期待する「見方・考え方」をすぐに想起することはなかなか難しいものです。

そこで本稿では、学習課題を設定した際に、「問題解決のための見方・考え方を意識していない状態から、解決のための見方・考え方を意識し、働かせていく状態に切り替える」『スイッチ発問』を教師がすること、児童・生徒は、本時の学習課題を解決し、指導事項の内容を達成すると共に、同様の課題に対しても解決できるための「見方・考え方」を獲得できるようにする

授業デザインを提案します。

長らく国語科の「読むこと」等の授業では、小学校においても中学校においても、児童・生徒にどちらかといえば自由な発想をさせ、豊かな読みを持たせることに価値が置かれてきました。けれども、そういった授業で、物語・小説を解釈することが「できるようになった」児童・生徒はどのくらいいたのでしょうか。

『学びの責任』は誰にあるのか』（ダグラス・フィッシャー＆ナンシー・フレイ 吉田新一郎訳 二〇一七新評論）でも、授業の導入で行う「焦点を絞った指導」で「焦点を絞った指導の段階では、目的を設定することに加えて、優れた読み手、書き手、考え手が扱っている内容について、どのように情報を加工しているのか」という見本を生徒たちに提供します」（11頁）と述べられ、活動の前に本時の学習で働かせる思考プロセスを示すことが提起されています。

児童・生徒が「できるようになる」ためには、できるようにするための軸となる「見方・考え方」を確実に獲得させることが必要です。さらに「見方・考え方」を授業で働かせ、獲得させるためには、働かせるためのスイッチを入れる発問を授業の中で仕掛けることが必要となるのです。

2 スイッチ発問の七類型

では、スイッチ発問には具体的にどのようなものがあるのでしょうか。これまで国語科では、課題を解決する際の際念的思考の具体が広く示されてきていなかったように思います。そのことは学習課題の達成には目が向くけれども、学習課題の達成をするためにど

スイッチ発問	
①比較	Aに目をつけてBとCを比べてみよう スイッチ発問の例 大造じいさんが狩りに出かけた時間と比べて、じいさんの残雪を撃とうとする気持ちの変化を想像しよう
②定義	Aという決まりに目をつけて、当てはめてみよう スイッチ発問の例 はじめ・中・終わりの役割に目をつけて、説明文を3つに分けてみよう
③類推	Aと似たようなことを思い浮かべて重ね合わせてみよう スイッチ発問の例 自分だったらどう思うか考えて、医者様を呼びに行く豆太の気持ちを思い浮かべてみよう
④因果	Aに目をつけてBという結果になったのはどうしてか考えてみよう スイッチ発問の例 コスモスをもたらしたゆみ子の様子に目をつけて、お父さんがつこりと突って戦争に行ったのはどうしてか、考えてみよう
⑤分類	Aに目をつけて、仲間になるものを集めよう スイッチ発問の例 大豆料理の工夫に目をつけて、文章に書かれている工夫を書き出そう
⑥帰納	A、B、Cに共通していることは何だろう スイッチ発問の例 松井さんの行動をいくつか取り出して、性格を一言で表そう
⑦-1 具体化	Aを詳しくしていることを見つけよう スイッチ発問の例 動物が海の中で速く泳げる工夫は詳しく言うときどんなことだろう
⑦-2 抽象化	Aをまとめて言うときどんなことだろう スイッチ発問の例 チョウの羽の中が円柱状になっているの一言で言えばどんな意味があるのだろうか

表1 出典『問題解決型国語学習を成功させる「見方・考え方」スイッチ発問』（拙著 2021 東洋館出版社）17頁

原則1	学習課題の設定	何を指すのか明確にする
原則2	学びの見通しの共有	スイッチ発問を行い、見方・考え方の見通しを共有させる
原則3	個人追究	個で取り組む機会を設ける
原則4	ペア対話／全体対話	対話の働きを使い分ける
原則5	精査・推敲	対話を踏まえ、再度、個人で思考する
原則6	ふり返り	3つのポイントでふり返る ・「何ができたか、分かったか」 ・「どうやったらできたか」 ・「仲間のどんなよさに気づいたか」
原則7	活用／定着	価値づけし、活用を意識づける

表2 出典『問題解決型国語学習を成功させる「見方・考え方」スイッチ発問』（拙著 2021 東洋館出版社）27頁

んな「見方・考え方」を使うのかということに意識が向いてこなかったことの現れでもあるでしょう。一方、今後の学習指導要領の改訂では、「知識・技能」の内に「情報の扱い方に関する事項」が新設され、ようやく「比較」「分類」「帰納」など、課題解決の際に必要な概念的思考が記載されました。

そこで「情報の扱い方に関する事項」と先行研究等を参考にし、スイッチ発問の類型を次の七つにまとめた（表1）。

ここでの発問例は小学校教材のみならず、中学校教材でも十分使えるものです。発達段階からみると、小学校低学年では比較・定義・類推、中学年では因果・分類・帰納、高学年では具体―抽象を重点的に働かせたスイッチ発問が効果的です。

3 スイッチ発問を取り入れた授業デザイン

スイッチ発問を取り入れた授業の基本デザインは次のようになります（表2）。

導入で学習課題を設定した後、スイッチ発問を行い、見方・考え方の見通しを共有させます。「ごんぎつね」の例でいえば、「ぐったりとうなずいたごんは心の中でなんて言っていたでしょう」という学習課題を解決するために「兵十のぞんに対する呼び方を比べて、ごんに自分を重ねてみよう」という見通しを示し、個人追究・協働追究等さまざまな形で繰り返し比較等の「見方・考え方」を働かせ、課題を解決すると共に、「名前の呼び方を比較することで気持ちの変化を想像することが出来る」力を獲得していくことができます。

児童・生徒が「できるようになる」力をつける授業を目指す先生がた、「スイッチ発問」を取り入れた授業デザインを参考になさってみてください。